



我妻とくお議会レポート

No. 64

我妻徳雄事務所

米沢市大字口田沢1308-2

TEL. FAX 0238-31-2212

メール waga1308@ms3.omn.ne.jp

ゆきしろ

12月議会

12月議会の一般質問では、「実効性の伴うゼロカーボンシティ宣言について」「ニジサクラの安全性について」の2点について質問し、多くの提案、提言を行いました。

また、「除染土壌の再生利用方針の再考を求める意見書提出方請願」と「安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための意見書提出方請願」の紹介議員を務めました。

実効性のあるゼロカーボンシティ宣言に

目標達成に向けての進め方は

「とくお」本市は2020年10月8日に、2050年度までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。この宣言は、二酸化炭素排出量と森林などによる吸収量をプラスマイナス実質ゼロにするものです。目標達成のため具体的にどのように進めていくのでしょうか。

「市民環境部長」本市の温室効果

ガス排出量は2017年推計で約82万8000トンです。森林等の吸収量は約13万4000トンです。2019年策定の米沢市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）では、排出量の削減目標を2013年を基準として、2030年までに30・5%削減とし、長期的には2050年までに80%削減とし

ていました。「ゼロカーボンシティ宣言」を受け、現在見直しを行っている環境基本計画に、2050年の実質ゼロを目指すことを盛り込みます。さらに、地球温暖化対策推進法の改訂を見ながら、できるだけ早く本市の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の見直しに取り組み、二酸化炭素排出実質ゼロに向けての「具体的な工程や数値目標を定めていきます」。

「市民環境部長」市民一人ひとりが省エネや日常生活の見直しを進め、自転車や公共交通機関の利用促進、低燃費車や電気自動車の導入、緑化や植樹など可能なものから取り組んでいただけるように進めていきます。また、企業に、再生可能エネルギーの導入と、省エネルギーや低酸素・循環型社会の構築を進めていただきます。具体的には太陽光発電といった自社工場の屋根などでの自家発電、そして、LED化や断熱リフォームなどによる省エネを推進していきます。広報やホームページなどを使い啓発を図っていきます。

市民意識の醸成が必要

「とくお」実効性のある「ゼロカーボンシティ宣言」とするために、市民、事業者、自治体が一丸となって取り組む必要があります。市民意識の醸成の取り組みをどのように考えているでしょうか。



「市長」吸収源に関して、草木にも神が宿るといふ「草木塔」の精神を大事にし、森林の活用を図って行きます。また、SDGs（持続可能な開発目標）でも森林活用の取り組みを進めていきます。

「市長」吸収源に関して、草木にも神が宿るといふ「草木塔」の精神を大事にし、森林の活用を図って行きます。また、SDGs（持続可能な開発目標）でも森林活用の取り組みを進めていきます。



ニジサクラ 自然界への影響なし!

「とくお」今年2月に山形県新御当地サーモン「ニジサクラ」がお披露目されました。ニジサクラは、ニジマスの雌と山形県の魚サクラマスの雄

を使つて、卵を倍化処理により作出された全雌三倍体の魚です。三倍体魚は、温度刺激による染色体操作などの人為的処理を行うことで、3組の染色体を持つ魚です。通常の染色体と違う魚の養殖をすることになりますが、ニジサクラの食品としての安全性に問

題はないでしょうか。また、魚が逃げた場合は、自然界にどのような影響を与えるでしょうか。



請願紹介議員として

「産業部長」三倍体魚の作出技術は、お湯につけるだけの技術であり、生物の遺伝子そのものを改変するものではなく、安全性に問題ありません。万が一、自然界に逃げても天然魚よりも弱いため環境に適合できず長生きできません。また、全ての個体が未成熟の雌のため繁殖することもできません。自然界に影響を与えることはないと推測されます。2年後にニジサクラの本格的販売を想定しています。安全性、販売のPRも兼ねて、市広報等で丁寧に説明します。

「除染土の再生利用方針」を考える

民生常任委員会請願審査から

2011年3月の福島第一原子力発電所事故により、大量の放射性物質が環境中に放出されました。住民の被ばくの低減を目的に除染が行われました。福島県内の放射能汚染土は、1400万㎡と推測されます。これを30年以内に福島県外へ運び出すとの約束が、地元と環境省との間でなされました。そこで環境省は、少しでもその量を減らしたいと、8000ベクレル/kg以下の除染土を、道路工事や公園の緑地の造成などの公共事業に再利用しようとしています。従来、1000ベクレル/kgを

再利用は放射能の再拡散では

除染土が河川等に大量に流出し、環境中に拡散されるおそれがあります。

集めたものを再拡散することです。除染土は放射能が十分に減衰するまで、東京電力と設置許可をした国が、責任をもって管理するのが最善ではないでしょうか。

一般質問の様子は米沢市議会のホームページから映像で見ることができます

どうだべなあ

近年は雪の少ない年が続いていたが、今冬は寒波の到来が早くスタートから大雪となつていく▼子供の頃などは、今よりもつと雪も多く、除雪のされていない家の脇の小道などは、雪が降り踏み固めら、そして積りを繰り返して、道の横のブロック塀よりも上を歩いていたこともある▼そんな冬でも、先人たちは創意を凝らして雪に挑み、晴れ間が覗いたときにほっと一息つきながら春を待ち、そして春には雪は消えてなくなつた▼昨年から続くコロナ禍は今年になつても収束する気配を見せないが、治療薬やワクチンの開発も進み、まだ遠くではあるが明るい晴れ間も見えてきた。今は苦しい時代だが、春の訪れを待ち、あと一歩、皆で堪えていこう。(雅)

我妻とくおのホームページ

<http://www.3omn.ne.jp/~waga1308/>

議員活動を公開